

千代田区行政委員会委員の報酬のあり方に関する検討委員会第7回会議記録概要

日 時：平成23年9月7日（月）午後4時～午後5時

場 所：千代田区役所6階 特別会議室

出席者：（委員）5名（定数5名）

（説明者）政策経営部長、総務職員課長

（事務局）政策経営部長、総務職員課長、総務職員課職員

発言者	発言内容
	【午後4時 開会】
武藤会長	<p>本日は、区長への報告を予定していたが、昨日、事務局から報酬額及びその根拠について今一度確認していただきたい旨相談があった。大変急で申し訳なかったが、事務局から連絡させていただいた。</p> <p>この件について事務局から説明がある。</p>
政策経営部長	<p>9月5日に区長に検討会でお纏めいただいた内容を報告したところ、区としてその内容を基本に議会に提案していきたいという話があった。事務局としては報告書をいただいた上で、中で議論をしてから提案していく考えであったが、検討会の結果を区案として提案するとなると、確認をさせていただいたほうが良いのかなということ、お時間をいただいた。次回、あらためて区長報告をさせていただきたいと思う。</p>
武藤会長	<p>最終的に案の作成は一任させていただいたが、気になったのが、日額の27,000円という当初の案を25,000円に下げたりしており、どちらが合理的かということもあり、検討結果を事務局が引き取って議会への対応も考えると、再度議論をしたほうがよいと思い、昨日の連絡となった。</p> <p>事務局から論点の説明をお願いします。</p>
総務職員課長	<p>報酬額、教育委員会委員長の月額報酬額が何故現行の3分の1なのか。また、日額30,000円の根拠は新宿区や審査会委員の報酬を参考にしたがそれでよいのか。論点は報酬の額の改定理由である。</p>
武藤会長	<p>教育委員は104,000、4,000という金額があるが、監査委員は208,000ではなく200,000である。細かい書き方で、教育委員は現行の3分の1程度と書いてあるが、監査委員は20万円のところに3分の2程度とは書いていない。よく見ると、それぞれで違う意味があるのかと深読みしてしまう可能性がある。比較すると、千円という端数があるかないか、また、日額で3万円と2万7千円だったのを、2万5千円にした。</p> <p>私が2万5千円にした理由は、通常審議会の例だと、委員長が2万円、委員が1万7千円で委員は委員長の85%になる。委員長と委員の差額が3千円であるが、行政委員の日額報酬額を出したとき、差額が3千円という理論は余り通用しないのではないかと考えた。</p> <p>委員長の日額を3万円にした理由は、通常審議会の委員長が2万円であることを踏まえ、行政委員会という重要な執行機関であること、委員としての権限や責任が重いことを考慮した。その上で、具体的にいくりに設定するかというと、2倍まではいかないのではないかと、権限の大きさや責任の重さの違いは別として、活動時間が同じと考えると1.5倍程度の重要性ではないかと、という観点から3万円を算出した。委員長が3万円ならば、委員はその85%で2万5千円とした。</p> <p>監査委員は、議員選出委員は識見委員の半額とした。監査委員の月額は現行の3分の2程度になるが、民間企業における公認会計士の一日の</p>

	<p>標準報酬規定が8万9千円という数字がでていいる。一月働いた場合の報酬額は民間で働いた場合と同程度にするのが好ましい。その際、一月に3日働くと29万円、公認会計士の3日分程度しかない。日額で民間より低いところを月額で補う、日常的な専門性のフォローという委員会業務以外の仕事が行政委員には求められていることが根拠。月額を20万8千円とし、現行の3分の2程度とする。</p> <p>選挙管理委員会は活動内容から見て、月額でみなくてはいけないような専門性をフォローする活動は特に必要とされないのではないかと、ということから日額のみにした。</p> <p>教育委員会の場合は、委員会以外に専門性をフォローする活動が求められる。但し、監査委員ほどではないのではないかとということから、監査委員の半額程度、現行の3分の1程度とした。</p>
武藤会長	監査委員の勤務日数は。
総務職員課長	平成21年度実績では、月3日程度である。
武藤会長	月3日なら、29万円となり、公認会計士が3日働いた場合とほぼ同程度になる。そういう論理も働く。
小幡委員	現行の3分の1程度という表現だが、我々としては3分の1程度がよいと思ったからこういう結果になったのではない。結果的に、参考までに3分の1程度になった、ということを書いていくのではないかと。
外山委員	(3)の文書の中に入れ込むか。結論の頭に入れるか。
小幡委員	2の報酬の額についての下に、備考欄のようにして、ちなみに上記の報酬額は現行と比べるとこうなっている、とするとよいか。
武藤会長	それでは、()の現行の3分の1程度という表記は削る。
外山委員	参考がいいのではないかと。これを現行と比較すると。
松江委員	現行の3分の1に月額を抑えたというのは、3分の1を目指したのではなく、最終的な落ち着きどころがそうであった。記載しなくていけないのか。
小幡委員	全体を見て決めたわけだから、月額だけ取り出して現行と比較した書き方をしなくても。
武藤会長	<p>3分の1というのは、目標値に見えてしまうので、記載はしない。あくまでも、活動の中身と活動以外の専門性のフォローについて月額を考えた。</p> <p>このような説明で如何か。議会の説得までは考えていなかったかと。</p>
総務職員課長	委員の皆さんの意見を集約して、事務局の方で議会に説明していく。社会経済状況や一般の報酬額との比較等、総合的に勘案して結果を出していただいた。
小幡委員	選管だけは、過年度の勤務実績を踏まえても、最も忙しい月は日額のみにしたからといって、現行を下回ることには必ずしもならない、と記載しておくか。

外山委員	5 ページに記載するか。
松江委員	実働部分が多い。研鑽部分と実働部分を比べた場合に、監査と選管は対極にある。選管は労働提供的なものが多いので日額のみになった。
総務職員課長	書く位置だが、6 ページの報酬の水準の考え方に、教育、選管、監査を入れ込んだかたちは如何か。各委員の下に記載するよりは、この段落がよいのではないか。
武藤会長	まず、日額の3万円の根拠がきて、次が月額の説明で、監査委員は公認会計士との比較、教育委員は選管との違いを述べた方が説明しやすい。
外山委員	表現の方法だが、これでいくと我々がこれにしろと言っている感じである。後ろにあわせるならば、報酬の水準額について、とか柔らかな表現がよいのではないか。タイトルだけでも。
武藤会長	教育委員会についても、いろいろ視察を行った場合には、現行を常に下回るということではないので、忙しい時期には現行水準が維持されるという説明もある。 ちょっと、案文を書いていただいて。
総務職員課長	文章表現を修正して、やりとりをさせていただく。 確認だが、監査委員の議員選出委員の月額は、識見委員の月額を先ほど20万8千円としたので、その半額の10万4千円でよろしいか。
武藤会長	10万4千円でよい。 では、次回の日程調整をしたい。
武藤会長	【日程調整】 次回、10月17日の午後4時から。本日予定していた区長への報告を次回行う。 【午後5時閉会】